

四庫全書

八八八 特
812

60

65

70

75

特
八
1812

此中ちゆうのやと名な教きやうをい流りゅうすけ心しん和わ欠けく

あまあまままのま某まれれ及及痛いたれれのの時とき目めととれれ者もの

あまあまのの時とき目めととれれ者もの乃なり

人ひと我われままああ痛いたれれああももかかくくわわんんととああすす

ああままりり人ひとああままりりああままりりああままりりああままりり

ああままりりああままりりああままりりああままりりああままりり

ああままりりああままりりああままりりああままりりああままりり

ああままりりああままりりああままりりああままりりああままりり

ああままりりああままりりああままりりああままりりああままりり

ああままりりああままりりああままりりああままりりああままりり

ああままりりああままりりああままりりああままりりああままりり

ああままりりああままりりああままりりああままりりああままりり



四至之途及指箇全

一 橋筋大坂より河津津崎へ渡海堂
 五 江橋河波屋筋江崎一方より渡江橋
 以半三相系



銀或又徳此之船賃酒と三十石

下り編孔若徳物肉可急棚 揚屋 表表

一 河津より橋筋江崎 志良寺 松渡海八
 小坂江より南河津江崎 志良寺 松渡海八

三國志

うねり

白銀或は丸塔と船安燈油と又檜

灰ハ大坂より西へ渡河の途に

飛ハ燈の如く人おき八生玉新島院の

物ハいしと

一 阿列美山寺より北をどめハ大師也巡行の

ゆまると云傳但ナセ畝の井おしより北に

先ハ此連ハ橋より一畝く佳境ありて結

石渡波丸塔塔下へり了家時ハ字是津

場より北にドめト

一 河筋とく志波より美山をまて二里す○塔

塔依在可九ケ目より七ケ目やそう川○屋

々々村け丸おく川有○字傍村け

すもせ川有○字村○あやすお村け

一 吉野川より大坂舟より一○川

一 吉野川より大坂舟より一○川

河内

山崎の村



聖徳長門守
をす 釈迦
土師 出作

秋歌

秋歌乃 志やりの 志人ふめとるまゑ

よりの此つしとまゑさうせりなり

まゝなり 秋歌乃 志やりの 志人ふめとるまゑ

○むの本村

二こ 秋歌乃 山嶺りしりや 東向 秋歌乃
ひのまむ



秋歌乃

聖徳長門守
をす 釈迦
土師 出作

山崎の村

九

極楽のたゞの浄土の地なり

南無阿弥陀仏

是より今も衆を導く所

○河を村の大通りなり

一 今も衆を導く所

南無阿弥陀仏



坐像長之天
奉る釋迦
大所 造化

浄土

極楽のたゞの浄土の地なり

南無阿弥陀仏

是より今も衆を導く所

宗光村



水長寺
宗光村
宗光寺

宗光村

宗光村の地蔵大菩薩

宗光村の地蔵大菩薩の
宗光村の地蔵大菩薩の
宗光村の地蔵大菩薩の

宗光村の地蔵大菩薩

宗光村の地蔵大菩薩
宗光村の地蔵大菩薩
宗光村の地蔵大菩薩

宗光村



宗光村

宗光村

宗光村



立長六尺
坐高四尺
作之乃知

源号

薪よりあるは海道の存あり
観修よりあるは世乃あり

光りて人下海十八町

一 九く法指寺坐地南向阿波郡



坐高六尺六寸
坐高四尺
作之乃知

源号

大乗此よりあるは世乃あり
轉法指乃あるは世乃あり

一 大師寺堂南向河内郡切立村
 一 大師寺堂南向河内郡切立村
 一 大師寺堂南向河内郡切立村



大師寺
 切立村
 大師寺

大師寺

一 大師寺堂南向河内郡切立村
 一 大師寺堂南向河内郡切立村
 一 大師寺堂南向河内郡切立村
 一 大師寺堂南向河内郡切立村
 一 大師寺堂南向河内郡切立村

大師寺

一 十三年の冬 寺に坐す 坐す 坐す 坐す

坐す

あまのまへに 坐す 坐す 坐す 坐す
けくたのめや おもひの世



秘佛
坐す 坐す
坐す 坐す

一 十三年の冬 寺に坐す 坐す 坐す 坐す

坐す



坐す 坐す 坐す 坐す
坐す 坐す 坐す 坐す
坐す 坐す 坐す 坐す
坐す 坐す 坐す 坐す

坐す 坐す 坐す 坐す



一 十一年の御正月二十一日

一 中寺の御正月二十一日法善山金巻院と云
御正月二十一日法善山金巻院と云
御正月二十一日法善山金巻院と云

一 御正月二十一日法善山金巻院と云
御正月二十一日法善山金巻院と云
御正月二十一日法善山金巻院と云



一 十一年の御正月二十一日

一 御正月二十一日法善山金巻院と云
御正月二十一日法善山金巻院と云
御正月二十一日法善山金巻院と云

一 御正月二十一日法善山金巻院と云
御正月二十一日法善山金巻院と云
御正月二十一日法善山金巻院と云

おとすまふしす可のりの村▲恒のどらふお
はどす可のりふんらふはくふ再るま
おしんすふらふおのりふんらふはくふ再るま
しんすふらふおのりふんらふはくふ再るま

一 十右衛門寺明徳もともくふ北南

しんすふらふお

おのりふんのりふんらふはくふ再るま
おのりふんのりふんらふはくふ再るま



坐あ天
中らふ再
法作

おのりふんのりふんらふはくふ再るま
おのりふんのりふんらふはくふ再るま
おのりふんのりふんらふはくふ再るま
おのりふんのりふんらふはくふ再るま
おのりふんのりふんらふはくふ再るま

一 〇〇〇〇〇〇村〇枝村〇志が村〇たの村標
 十八度思ひの南向きに雄出と云ふ



此の寺
 住持
 住持

此の寺は... 母乃母の寺

一 十九番... 天正村... 此の寺は...



此の寺
 住持
 住持

日よとてび明まぬ文のともとももお流る
 ぬふ屋に別あゆくたにわらふまきせ
 ぬふ流るり前わがり奥院いん心
 月明の意暇寺静極る奥院をるを鋪す
 二人乃作寺かをテ解死お考まわるとなる十
 一而多動は流まも土師出外又回ねおし
 の家ありま後おて又作の系終るる土師
 口かきまぬ人住もがおうすまもわらわ
 ぼい志たいまり一子名やと終るんせとの
 もてみまんせんかい金剛持法併終るる
 らうりか流まぬあ又十る終るる口わ
 尺さういま文終るかく二子名とまり
 口方らえおせんごう土師出外と即後庵
 兼持法あせしりはうりあくすえ

四國志

三十四万石 領地 同 山 寺 村 等 一

おまゝに 或は 此の 山 寺 村 等 一

に 此の 山 寺 村 等 一

此の 山 寺 村 等 一

此の 山 寺 村 等 一

あり

大師 山 寺 村 等 一

之長之天

今之土地

大師 山 寺



此の 山 寺 村 等 一
大師 山 寺 村 等 一
今之土地
大師 山 寺
此の 山 寺 村 等 一

四國志

山崎村

廿九

多々多々多々多々の多々多々多々の
あしたは多々多々の多々多々の多々多々の

多々多々多々多々の多々多々の多々多々の

多々多々多々多々の多々多々の多々多々の

多々多々多々多々の多々多々の多々多々の

多々多々多々多々の多々多々の多々多々の

多々多々多々多々の多々多々の多々多々の

多々多々多々多々の多々多々の多々多々の

多々多々多々多々の多々多々の多々多々の

多々多々多々多々の多々多々の多々多々の



本々々々々
出化秘佛

多々多々多々多々の多々多々の多々多々の

山崎村

廿九

山内村よりとある

右斗舎の河^{あき}筋^さは是より^い往^はり^ます

其を^いま^はり^ます河^あ波^なら^ます

○山川内村より^いま^はり^ます

路^みち^ちは^まり^ます

ち^のり^ます

ち^のり^ます

山内村よりとある

山内村よりとある

山内村よりとある

山内村よりとある

山内村よりとある

山内村よりとある

山内村よりとある

山内村よりとある



此の山は...
 ...
 ...

あらねの...
 ...
 ...
 ...
 ...

...

...

○中野村の相方此おらの思ふ流儀と人の言
ふとのをまうとありて流干見のふとつむは
ぬ此方ふ流有○の流く入は宮を有并大
師をみま流の宮とつれいお志を人か
細地してより町敷お川あり○かおと敷
さくしおんの浦切身ハ流去い流きかごを後
是より二里よけとびい〜くか人承流也

○入木村かまんは又并川○此このを流しれ
りか〜と流有○か〜と村かぶつ後村あり
○志おか村○か〜と川村に〜と村あり東
も〜と町流形お見おかりま川大流か
かく〜とる十を分り〜と又或ハ〜と入流
ハ二三方或ハ〜とらん十を分り〜とら〜と
社建おあり〜と深物流と御と此を流
お毒おありて人承とらんがい〜とるふ



秘佛
本寺地藏
所作

此のりあまのまきまがけ川らこのり
浦さく標石をぬくハ是よりたしく
まよひいふ衆ふ大師此作の本勅をぬく
みくれぬまの御守ハぬく御守ハぬく
此のりあまのまきまがけ川らこのり
ちのりあまのまきまがけ川らこのり
一なりをぬく御守ハぬく御守ハぬく
まのりあまのまきまがけ川らこのり

一
たのりあまのまきまがけ川らこのり
秘佛
此のりあまのまきまがけ川らこのり
まのりあまのまきまがけ川らこのり

此のりあまのまきまがけ川らこのり

原之○やびれ山なりて河○カハもむ村を井
 山ありて多敷あり○カハ井村常一五村○
 白井浦を町とせ方か川やま後○カハ
 とも村○わんか村何とてく橋○カハのいら村
 志く一なる有○大く五村

一
 正長天皇御山と云ふ所なりて大日
 尊御坐す所なりて大日
 尊御坐す所なりて大日
 尊御坐す所なりて大日



大日
 尊御坐
 所なり

是より^{カハ}もむ村を井
 山ありて多敷あり○カハ井村常一五村○
 白井浦を町とせ方か川やま後○カハ
 とも村○わんか村何とてく橋○カハのいら村
 志く一なる有○大く五村

此方小川^の○^の村

一 九の島國方寺多々^のあり^のも^のじ^のた^のら^のぐ^のと^の敷

おくら村



立長三人
本寺の子子
の基他

おくら村

おくら村

おくら村

おくら村

おくら村

おくら村

おくら村

おくら村

一 平昔^の一^の文^の作^の堂^の六^の南^の西^のの^の敷^の一^の村

一 三子寺にありて山左の寺也



秘佛

おそろふ珠

のまへに

おとしとていせに佛の母とて

御子とていせにハチとて

三子寺にありて山左の寺也

三子寺にありて山左の寺也

三子寺にありて山左の寺也

一 此寺は神代よりありて



秘佛

おそろふ珠

のまへに

三子寺にありて山左の寺也

うらやまのふりかへしはあまの
よーのふりかへしはあまの
ふりかへしはあまの

ふりかへしはあまの
ふりかへしはあまの
ふりかへしはあまの
ふりかへしはあまの
ふりかへしはあまの
ふりかへしはあまの
ふりかへしはあまの
ふりかへしはあまの

ふりかへしはあまの
ふりかへしはあまの
ふりかへしはあまの
ふりかへしはあまの
ふりかへしはあまの
ふりかへしはあまの
ふりかへしはあまの
ふりかへしはあまの

ふりかへしはあまの
ふりかへしはあまの
ふりかへしはあまの
ふりかへしはあまの
ふりかへしはあまの
ふりかへしはあまの
ふりかへしはあまの
ふりかへしはあまの



長門郡長門村
長門郡長門村
長門郡長門村
長門郡長門村
長門郡長門村
長門郡長門村
長門郡長門村
長門郡長門村

ト一〇三息

一 世を法鏡とあるは皇朝の皇

すの氷と汲ハ心孔にさうさう
はしれはれらるる乳岩のぬれ



秘佛

本寺の秘佛

行基作

是より法鏡とあるは皇朝の皇
山河有の位くら村の定住坂のうら村
から及く山河の位くら村の定住坂のうら村
を法鏡とあるは皇朝の皇
物種有り。ふく志ま浦此島入海
島は河内郡のいのちり村に在る所を
礼承く此島に在る坂のうら村
此島に在る山河の位くら村

山河の位くら村

山河の位くら村



秘佛
身も不動
大帥御作

此の村の秘佛は不動の尊に
佛の守護は乃ち此の村に

是より仁井田と十三室但しの志久の

此の村の秘佛は不動の尊に
中へ渡りて中へ渡りて中へ渡りて
いづれかこの村の秘佛は不動の尊に
村の秘佛は不動の尊に
いづれかこの村の秘佛は不動の尊に
名づく又此の村の秘佛は不動の尊に

ちたは乃海お力いらもきき此ゆしんこくしん
 へばさる力をわかれとも見えは道一ちた
 わりきとハいつにわかんちうひ新力公海
 の聲かたけりかく、はあおひあきく
 終ちとめん子業意をもお座解有○出り夜
 又ハこらめ板も○こらめ村○わくふ板今
 としんせうしん道と終○ませお板とゆす
 ○ませお村○たせいー板とゆす○だめさ

坂のようさ村をまわくし板の中し板中
 大所乃出ゆめとえ
 ちゆふちゆす板をこえんせう
 とりせいこうくとりせいこうく

いのちりよちと板をこえんせうしんこくしん
 ちゆふちゆす板をこえんせうしんこくしん
 戸ゆふちゆす板をこえんせうしんこくしん
 とくちゆす板をこえんせうしんこくしん

のせ川○すくも村町さゆ神宮をうけ
 こまか流るう洞也よりさ島入にハ附あり
 軍と洞がくーあふくまうくーしー
 ○か流の村○にま村らふる島村○大ふの島村
 島本有まはる道沿の切なハ出せ入し
 二年松尾張流ち豫のさうハ標も有る海
 へ得見もあひやふうの志海から此の島せ
 取切よと改る○ひろく村さくかけふ時ハ島
 とらあふをく○うハおかま村○まふーく村
 一 早く親自在る花あ向う和字城村



をまるとんす
 本なる宗師
 作名も各

まんくりんやまぎいのまにまらさ
 うまらのけいすもやんまの

一すぢら 山越のりナニ屋

一すぢら 山越のりナニ屋

一すぢら 山越のりナニ屋

一すぢら 山越のりナニ屋

一すぢら 山越のりナニ屋

一すぢら 山越のりナニ屋

一すぢら 山越のりナニ屋

一すぢら 山越のりナニ屋

一すぢら 山越のりナニ屋

一すぢら 山越のりナニ屋

一すぢら 山越のりナニ屋

一すぢら 山越のりナニ屋

一すぢら 山越のりナニ屋

一すぢら 山越のりナニ屋

はめ波ちびちりせんくろま念念

△四國編禮 聖徳太子

△四國編禮 道徳をくぐ全

○柳井村 紀伊郡 此村 河内 延喜

七とせはるるは 弘法大師の御説き

と人宿るは 弘法大師の御説き

おのり村地をきく 弘法大師の御説き

也 弘法大師の御説き

弘法大師の御説き

弘法大師の御説き

弘法大師の御説き

弘法大師の御説き

弘法大師の御説き

弘法大師の御説き

弘法大師の御説き

弘法大師の御説き

四國久...



坐四天
如る大日
法作

一 宇千之明石寺山正のありむ向う和部

明石村

せんき
ちんじゆ
まきあけ
おんじやくくわんちんり



座三又
大寺の千々
座併

是よりすげり世に山と亦る里○この町細物
ト一法師を有○トまの村○とまの
村○あり江村○来た村も不切子改○とまの
村○ありとつと大と徳とあさりひさく戸

四國の書

三

村○むら 西明社村ゆきく坂有見
 坂と訂正く此様より眺むすれはちとせしよ
 く松山乃塚堂とくし一様ゆひは三津の浪浩
 く糸より浪瀬洋中ふにゆいといはる
 中富士路河井山のなりしむとてま山と
 崎かしくのお船作り船のうき波を
 せうそく坂もも一様傳説の系を大解をこの
 〇〇のむら比奈堂〇とかの村あふ大所堂
 〇くふ村此有少川有〇志やいゆり村
 一 軍ちく海瑞瑞もそ地と向うとあを記
 志やいゆり村



秘佛

本寺の宗師

新基作

山ノ

山ノ

物事此をせしむるにせよとてくハ
 くらぬらうくハむらひのちりー

ワシヨリハ物事と又

ワシヨリハ物事と又
 正南ハは寺北ハハ南

山ノ
 瀧佛と云ふ人々やいふ
 瀧佛と云ふ人々やいふ

山ノ



山ノ
 本寺河弥池
 山ノ

あり山ノ村の寺ハ大徳ノ子ハ八人ハ地蔵有
 川ノ水有○大ノ村ハ山ノ寺ハ大徳ノ子ハ八人ハ地蔵有
 山ノ村ハ山ノ寺ハ大徳ノ子ハ八人ハ地蔵有

山ノ



五三尺
なる十一面
法化

一
この佛の世界とたはるくは
に一乃相れちくぬりけし
きより海を渡して其處ける○古井村小川二
一 澤を渡る山とほま向くはたけの村
十 徳なりを力とせよとせよ



秘佛
年々親迎
仍奉化

一
きよりなる一とたはるかゆり
文をたたく町とたはるか
一 舟と船と寺と地西向澄る

四

与修のそそちんがらととにたしと
ちかひやうのれとのぞいおれよ



長云天
中より宗師
新基作

るくまこたけのげえ所ノ石を村

一

みすてるもほの東の海邊路石を村

海邊路石を村
あまの

七八

ちかひやうのれとのぞいおれよ



中長武天村
中より宗師
新基作

是より大山だいせんまへ二宮か新基作をさ

て河野古墳ふるみ海をさつ今竹をたし

と家とけ外とけ有あり以も物ものの氏神うぢがみをさ社むら

セア

四箇の栞

七十



立六尺一寸
本寸十寸
引基作

たつこのおれハおきれおれと
のらるるおれハおきれおれ

あまのうみ
あまのうみ

一 みるまゝの明も多地南の和氣新和氣海村

まのうみとのおれりのおれり

セア

てうそあかげらふらく乃月



立二丈二寸
引基作

村○大谷村を所ある○あまの村○は
て村らえおれり○柳を村村らえ
あまの飯○柳を村町○あまの村町

中橋有りて此の坂も大所なり○
 此の村も亦さう切な所なり
 まも坂ひらいわけ坂此方一里餘なり
 ○この海村町有此方小川を引きたらし
 坂○たこの村○さう村小川次町○新田
 ○縣村^{わか}宇奈木山札の^た下より上りて
 一里餘有回石橋名有
 一里餘の途^{えん}命^{めい}さうり山と云ふは
 一



中二天
 中三山
 中四山



この山はさう遠のえんがら
 此の山はさう切な所なり
 まも坂ひらいわけ坂此方一里餘なり
 まも坂ひらいわけ坂此方一里餘なり

西門大板

よりあつむ

一 五ノめくとも宮を祀る白くちり歌也
通智佛

あのみりく 白あゆめ好もえんし
あまふししりしあけ 一すく如く

此間を新宮と云ふ 春山寺より一里二丁
大いさ下

たハ今路下流より御自由○日吉村○
山崎村大御堂有○小原村

又十六く春山寺 一し



坐二尺四寸
本寺地蔵
大師也

と孔人乃ゆいらえりくたはん
来世好くたすやあはまは
是らりやういあまへ十何れ也地所

西門大板

西門大板

四國入持

一 ともたけの山にありては
五斗をいづる山とてあり



秘佛

如きあり
化名あり

そのまやらの山にありては
五斗をいづる山とてあり

一 足より作徳とては
五斗をいづる山とてあり



立ちあり

化名あり
化名あり

ちよりくはれいのかた
五斗をいづる山とてあり

五斗をいづる山とてあり

此の如くもてはるる人等も有次乃可からたふよと
 申水るるく大の律河原標をいふ一六
 一のまかうかんドよとらと申すれがこめ
 一のまかう一乃まを新中ま村へう法一を
 法あよりて今ハ大の律河原よりたふよと
 ろとらうかん一のまを打○こころん可○
 たんちう可西あわうはあな山に備ふれと
 小大師出づけまはれ地を北とまわけて
 計り一(きんぐん村○大戸村此亦不
 物をいふのいふは二百里○地は村地を
 せま○あわら村地を大戸山踏合
 一六すく横あまの山に可と同部



座二尺三寸
 本より大日
 行基作

四國志

七十五

たるよまにともおとすふるたて
 あまのく人をすらすあまのく
 ときうかろんとあまのくおとすふるたて
 よまのくよまのくおとすふるたて
 のまのくよまのくおとすふるたて
 月影の回るとおとすふるたて
 此川が○まのくおとすふるたて
 一字で香園^{カウカン}平地東向周部^{カウカン}のくおとすふるたて



香園^{カウカン}平地
 東向大日
 周部^{カウカン}

一のまのくよまのくおとすふるたて
 あまのくよまのくおとすふるたて
 一字で香園^{カウカン}平地東向周部^{カウカン}のくおとすふるたて



立つ尺二寸
本寸十一寸
他寸五分

此の所のあらんはさるるに
ちりやちりや一紙文に

先が^{さうら}若^ら祥^{しやう}もま^まえ七^{しち}町^{ちやう}き町^{ちやう}の^のい^いふ^ふ少^{せう}海^{かい}
川^{がわ}の^の可^か海^{かい}に^に有^あり

此の所を^{このところを}持^もち^ちて^て地^ちに^にい^いは^はす^す所^{ところ}の^のい^いふ^ふ少^{せう}海^{かい}村^{むら}



中二尺
本寸四寸
大師出化

この所の^{このところの}い^いふ^ふ少^{せう}海^{かい}村^{むら}の^のい^いふ^ふ少^{せう}海^{かい}村^{むら}の^のい^いふ^ふ少^{せう}海^{かい}村^{むら}

先が^{さうら}室^{むろ}ま^ま人^{にん}神^{かみ}と^とく^くる^る室^{むろ}の^のい^いふ^ふ少^{せう}海^{かい}村^{むら}の^のい^いふ^ふ少^{せう}海^{かい}村^{むら}

四世... 七...

一
と千四く^{あたま}山と堂^の東^の新^の石^の形
尾^の五^の形^の現^のの社^を造^して^はし^らる^る鑑^の山^ののま^ま
れ^りあり^はれ^る石^の鑑^の山^のの社^を造^して^はし^らる^る鑑^の山^ののま^ま



秘佛
千の強陀
作たるを

乃

此^の札^の不^のは^の山^のと^の月^の形^の有^の形^のく^のと^の有^のな^のて
鑑^の山^のの社^を造^して^はし^らる^る鑑^の山^ののま^ま
と^のか^のさ^のし^のなり
里^のま^のま^の人^の社^のより^の二^の角^のを^の十^の室^の
〇^のす^のの^のら^の村^の〇^のあ^のん^のぢ^のう^のち^の此^の名^のあ^の川^のは
り^の川^のあり^の〇^の大^のま^のら^のし^のより^のめ^の可^の録^のを^のら
あ^のる^の条^のも^のそ^のし^のら^のを^の者^の〇^のあ^のく^のた^のけ^の村^の〇^のと
ま^のま^のあ^のゆ^のら^の〇^のち^のん^のぢ^のう^のち^の村^の〇^のな^のら^の村^の〇^のす^のま

三

心通を流くことと念をよ

此のふらぬはゆへに室 在二十のふらゆ分
三角より奥地まゝ十ヶ所故乃其地は
おふ大久保家ニと新有昔地をえはし
但おくの流一畝の村ハ昔地物新奥地が
もつ大師法然由自化海より

格架よりもあはし一此も乃
しやりのあると同たはし

此の西海志のりことらしし略せり奥地より
昔地もつ存ありもよりあはしし入りし
大久保一畝の村と似たり今山ハ昔奥地より
早備久山嶽○三角よりせり流る入りハ寺の
下はたけり○金川村○内村と村故有○栗山
村もあはし○をんす村故もあし○まやけ村
観音堂○たいお村故もあし○移り新有村も
たせつあしと故有峰ふる新河波のさうひ

大正のころは、
 ○この村は、
 ありて、
 一

は、
 大正のころは、



大正のころは、
 大正のころは、

大正のころは、
 ○この村は、
 ありて、

一 寺中ニクニ山形尾山東向を由那は村



坐長二尺許

中より坐師

大師由作

極重一書なるを在るも凡ら

法乃九一人は凡ら

大正引と三皇〇を村のあり村

志願する村の親多何細物

く川子もふ十五等公有是の

一 寺中ニクニ山形尾山東向を由那は村

秘佛

本尊身弥陀

作者不知



乃青心はゆる風色

西園寺打落

多風より一然と云はれ家子自由あり



中二五八守

本尊馬鞍

此作

ふりふたにきりうらむをいれや

たかひのふん

是の御宗のいふに里○なる村にせり
左作又まれの○りま村○のり村○を
村かる志ありし有報をよかりと
右並に○大の村大御をたくらある

一 法華経法華寺ありこの郷

悪人といはれしありんはれし

あかりそをいふよとていふ

是かゆふとていふよとていふ

西園寺打落

此作

宝徳寺

三十五

遊小江乃有主んて寺ハ二五門より長



立長三々寺

中寺千々

大師也他

一 〇〇〇の村〇〇〇の村〇〇〇の村

一 寺々々々々々々々々々々々々々々々

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

三々寺

中寺大月

大師也他



〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

宝徳寺

三十五

又嘗我あふまうけのほくく一之有部
人乃よりいふとく

あられをうあめり下
まらぬとる

一七十二とむ祝迎寺少山と登るを東向
まらぬとる

たのむい山おれ祝迎

祝佛

中々祝迎

出化



外小虚言をきくしむれ 此もれ行亦
十六町山と中明然といふし有く書
あつぬふく

聖徳太子御坐像

甲山寺に在りて河原村

一 甲山寺に在りて河原村



聖徳太子御坐像
甲山寺に在りて河原村

ナニ神に云ふ事もいふ事

このれや甲山に在り

聖徳太子御坐像

一 甲山寺に在りて河原村



聖徳太子御坐像
甲山寺に在りて河原村

このれや甲山に在りて河原村

是分有念言と世了んる也との時八重
小片物在と初と室字標名有○表也言
おふ初ハと名田村○下高村○念念と村
七十と念念寺と化堂ハ表也と



立二尺八寸
今号は兼師
智證作

一
南無と非は信也と印と札と
去る也加持乃所と印の多り
先公乃證とと一室○院と名村○と村
一十年七と改題と多化堂ハ表也と



立二尺五寸
今号は兼師
智證作

逆光

逆光抄

一十九

光のひをを佛の座に入をて、
 光のい乃月をを佛の座に入

光のい乃月をを佛の座に入
 光のい乃月をを佛の座に入
 光のい乃月をを佛の座に入
 光のい乃月をを佛の座に入
 光のい乃月をを佛の座に入
 光のい乃月をを佛の座に入
 光のい乃月をを佛の座に入
 光のい乃月をを佛の座に入
 光のい乃月をを佛の座に入
 光のい乃月をを佛の座に入



坐一尺寸
 本寺あり
 此也

光のい乃月をを佛の座に入

光のい乃月をを佛の座に入
 光のい乃月をを佛の座に入
 光のい乃月をを佛の座に入
 光のい乃月をを佛の座に入
 光のい乃月をを佛の座に入
 光のい乃月をを佛の座に入
 光のい乃月をを佛の座に入
 光のい乃月をを佛の座に入
 光のい乃月をを佛の座に入
 光のい乃月をを佛の座に入

逆光抄

國をうけたるはとてはしむく
ゆいれはる人をにまけしむる

是の白峯とてはあまの河原の
あまの河原とてはあまの河原
いそとく白峯とてはあまの河原
あまの河原とてはあまの河原

あまの河原とてはあまの河原

あまの河原とてはあまの河原
あまの河原とてはあまの河原



立三尺二寸
今も千身
作えふ知

道中とてはあまの河原
あまの河原とてはあまの河原
あまの河原とてはあまの河原
あまの河原とてはあまの河原



まはるはくしてこいけけりてのゆゑに乃道
わさひる愛人わさひはくして乃道乃道をり人乃道はくして
あせる汗あせして乃道乃道をり人乃道はくして乃道乃道
 めさしおのひもよらぬのさかちけり
 乃道乃道をり人乃道はくして乃道乃道をり人乃道はくして
 佛神乃道乃道をり人乃道はくして乃道乃道をり人乃道はくして
 より根葉るさあ十河山嶺ありて村かしけり
 乃道乃道をり人乃道はくして乃道乃道をり人乃道はくして乃道乃道

一 十二根香ねこりの御札の御札



とて大守
ふさふさ
出紀

おのれはまゝの御札の御札

おのれはまゝの御札の御札

おのれはまゝの御札の御札

おのれはまゝの御札の御札

一 十二根香の御札の御札



とて大守
ふさふさ
出紀

おのれはまゝの御札の御札

おのれはまゝの御札の御札

おのれはまゝの御札の御札

之の柳の繁なり古の天輪塔もさあつは浦
 を望むる浦と仰るく又わびしの汐をまより
 汐さらちあつた山のみもさびめがら南海の中途
 かく海合り糸引しび入海と可なり海りて
 を清ののち物類を思有又いのりえち南海
 よまらき社堂と本寺西院方大師出化しあり
 如門は信射をともたれく亦有大寺思也のふらん
 くの美有或はさどき社思居切也美ふ能ん

山とく海氏のお津亦有其介同橋給とあり
 也名けしむ村といふ所の如門ちやうく寺は
 一十あるい粟さ山と寺いふ向き川筋むれ村



左又
 なるふ
 大師出化

柳をさしむれ智大くやうり六

柳をさしむれ

一十

四ノ巻

此代はたはる有終軍のたはるものぬ

遊覧の件はあつる其源不はちりし功修

多終乃中ふ流がごとくしつとまへ修養

海を納めしへお難細し銀くし修養杖

今世お強ひたり我

通思今別道をおる者おはしし一たり

其別道は浦島知る花は

若懲悪の迄今世お強ひて修養の修養は

乃財神より修養の膝をひき就中

海に廻り流せ有終のたはるし

余厚くし一細糸老若今お歩を運ぶ

其流お強ひて修養年久しし世

大所はる事修養の去者修養糸一は

お強ひて修養のたはるし

お強ひて修養のたはるし

お強ひて修養のたはるし

お強ひて修養のたはるし

お強ひて修養のたはるし

お強ひて修養のたはるし

Blank page with a small mark at the top left and a large black ink blot at the bottom center.

道
普及於一
我等與衆生
皆負其
卯冬十一月
經緯具

